

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成29年6月12日

大分県知事

広瀬 勝貞 殿

提出者 〒871-8555
住 所 大分県中津市大字是則700番地
氏 名 TOTOサニテクノ株式会社 中津工場
取締役社長 蓮尾 令二
電話番号 0979-32-1111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	TOTOサニテクノ株式会社 中津工場
事業場の所在地	大分県中津市大字是則700番地
計画期間	H29年4月1日～H30年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	陶磁器 同製品製造業
②事業の規模	294億円
③従業員数	336名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙①

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図)	
別紙②-1	
別紙②-2	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状 別紙③ 別紙④	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙③・④参照		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙③・④参照		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状 別紙③ 別紙④	(分別している産業廃棄物の種類および分別に関する取組) 別紙③・④参照
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙③・④参照

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（16年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	79.4 t	t
	(これまでに実施した取組) ・再原料化として使用		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.0 t	t
	(今後実施する予定の取組) *歩留まり低下により再利用中止ですが、売却量増加を図ります。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（16年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	なし	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	4,992.5 t	t
(これまでに実施した取組) ・新型プレス機の導入			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥類	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	なし	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	4,967.5 t	t
(今後実施する予定の取組) ・工程内再利用、減量化施策 *減量化施策による削減を実施、前年度比0.5%削減を目標とする。但し、新棟生産開始に伴い排出量の増加は確実ですが増加量の予測は困難です。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状 別紙⑤参照	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画 別紙⑤参照	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

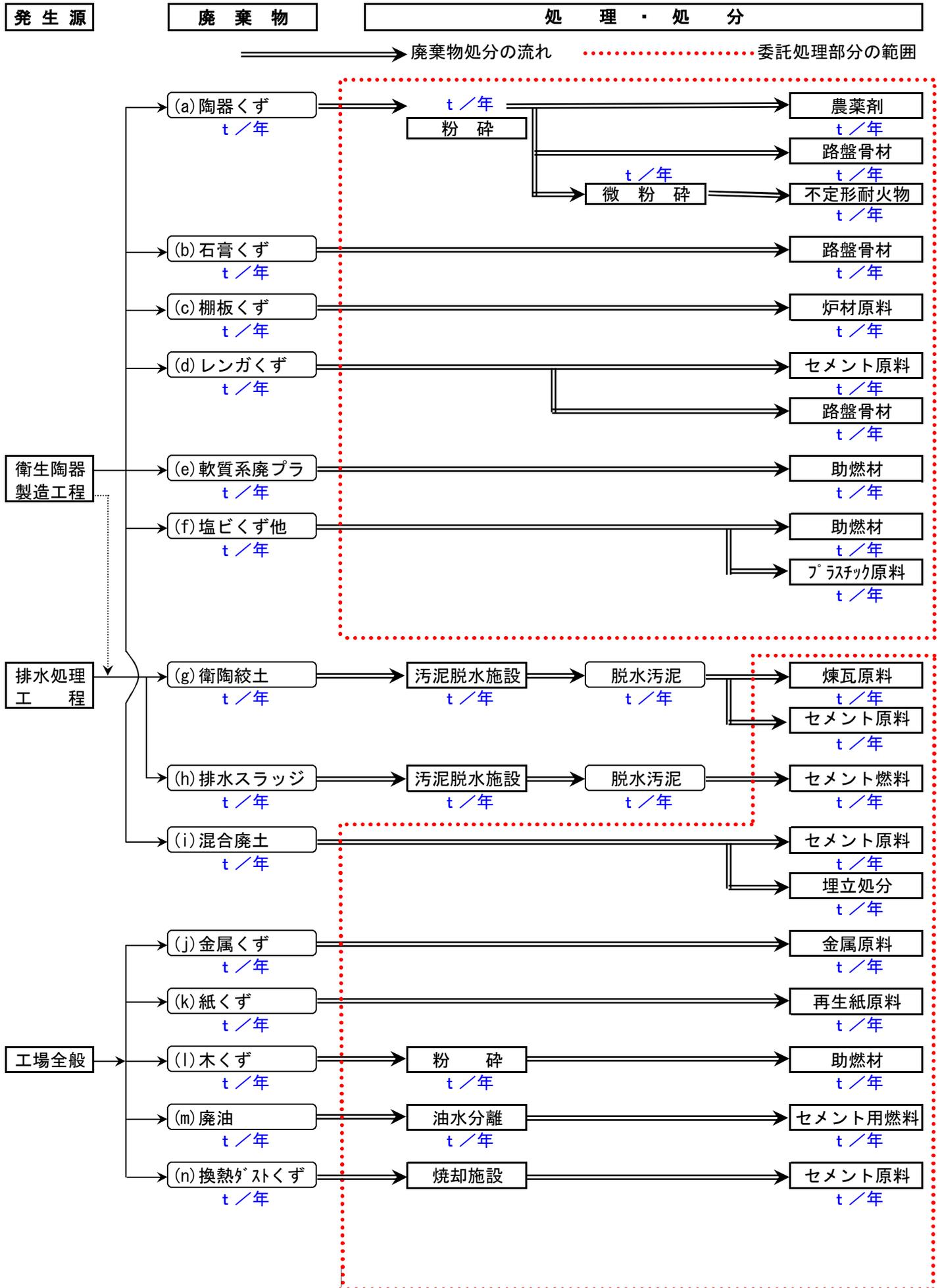
産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状 別紙⑤参照	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画 別紙⑤参照	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する取組)		
※事務処理欄			

別紙—①

産業廃棄物処理の一連の処理の工程



別紙②-1

TOTOサニテクノ中津 IMS組織図

衛陶生産本部IMS (ISO9001・ISO14001を統合して活動)

IMS小委員会				事務局；技術課	
	委員長	中津衛陶製造部長			
衛陶製造部	委員	計画課長	係長、IMSワーキング員	IMSワーキング員 課長からの任命者	
	委員	技術課長(委員長代行者)	係長、IMSワーキング員		
	委員	製造第一課長	係長、IMSワーキング員		
	委員	製造第二課長	係長、IMSワーキング員		
	委員	製造第三課長	係長、IMSワーキング員		
	委員	試験調製課長	係長、IMSワーキング員		
	委員	品質管理課長	係長、IMSワーキング員		
経営企画部	委員	経営企画部長			
	委員	総務課長	係長、IMSワーキング員		
	委員	経営企画課長	係長、IMSワーキング員		
	委員	安全環境課長	係長、IMSワーキング員		
	委員	工務課長	係長、IMSワーキング員		

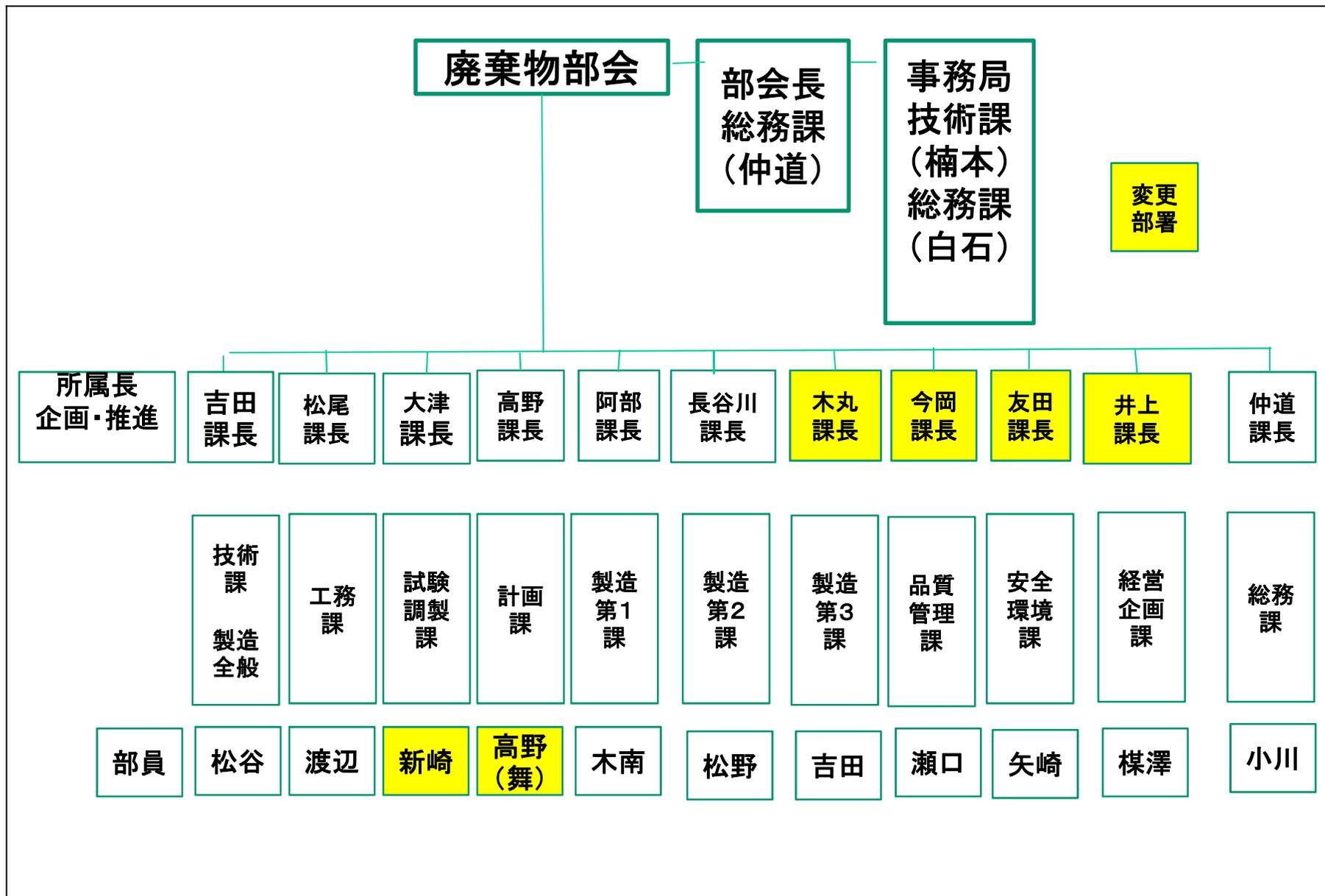
環境部会	エネルギー対策	廃棄物	環境保全
部会長(担当課長)	工務課長	総務課長	安全環境課長

活動組織は各部会管理

【法定管理者(届出者)】	
公害防止統括者	経営企画部長
公害防止統括者の代理者	中津衛陶製造部長
公害防止管理者(大気) " 代理者	公害防止管理者 大気一種又は三種の有資格者
公害防止管理者(水質) " 代理者	公害防止管理者 水質一、二、三、四種何れかの有資格者
公害防止管理者(一般粉じん) " 代理者	公害防止管理者 一般粉じん又は大気一種又は三種の有資格者
エネルギー管理統括者	経営企画部長
エネルギー管理企画推進者	工務課長
エネルギー管理士	エネルギー管理者の有資格者
電気主任技術者	第二種電気主任技術者以上の有資格者
防災管理者	防災管理者講習の修了者等 経営企画部長
産業廃棄物管理責任者 (届出不要)	総務課長

特別管理産業廃棄物管理責任者 (届出不要)	総務課員
--------------------------	------

'17年度 廃棄物部会組織(別紙②-2)



(別紙③・④)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					産業廃棄物の分別に関する事項	
産業廃棄物の種類	①現状		②計画		現状	計画
	【前年度（16年度）実績】		【目標】			
	排出量（t）	（これまでに実施した取組）	排出量（t）	（今後実施する予定の取組）	分別の取組	分別の取組
木屑類	47.8	パレット及び部材の樹脂化	47.8	パレット及び部材の樹脂化推進	別紙①②参照	現状通り
ガラス及び陶磁器屑類	1858.7	歩留まりの向上	1849.4	歩留まりの向上	別紙①②参照	現状通り
汚泥類	8009.8	工程内再利用	7969.8	工程内再利用	別紙①②参照	現状通り
廃油類	0.6	特になし	0.6	特になし	別紙①②参照	現状通り
廃プラスチック類	38.9	特になし	38.9	特になし	別紙①②参照	現状通り
合計	9955.8		9906.5			
			*環境部門による削減目標0.5%に合わせて前年度比0.5%削減を目標とする。 （ガラス及び陶磁器屑類、汚泥類）但し新棟生産開始に伴い排出量の増加は現実ですが増加量の予測は困難です。			

(別紙⑤)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

産業廃棄物の種類	①現状		②計画	
	【前年度（16年度）実績】		【目標】	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	(これまでに実施した取組)	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	(今後実施する予定の取組)
なし	なし	分別による低減	なし	分別による低減

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

産業廃棄物の種類	①現状					②計画						
	【前年度（16年度）実績】					【目標】						
	全処理委託量 (t)	処理委託量内訳 (t)				(これまでに実施した取組)	全処理委託量 (t)	処理委託量内訳 (t)				(今後実施する予定の取組)
優良業者認定処		再生委託の処理業	認定業者熱回収	認定業者熱回収	優良業者認定処			再生委託の処理業	認定業者熱回収	認定業者熱回収		
木屑類	47.8	0.0	47.8		47.8	パレット及び部材の樹脂化推進	47.8	0.0	47.8		47.8	パレット及び部材の樹脂化推進
ガラス及び陶磁器類	1858.7	12.2	1283.1			有価売却による再生利用の向上	1849.4	12.2	1276.7			有価売却による再生利用の向上
汚泥類	8009.8	1936.2	1955.2			有価売却及び工程内再利用の推進	7969.8	1936.2	1945.4			有価売却及び工程内再利用の推進
廃油類	0.6	0.0	0.6		0.6		0.6	0.0	0.6		0.6	
廃プラスチック類	38.9	11.2	27.7		11.2	有価売却による再生利用の向上	38.9	11.2	27.7		11.2	
合計	9955.8	1959.6	3314.4		59.6		9906.5	1959.6	3298.2		59.6	
						*環境部門による削減目標（0.5%）と合わせて前年度比0.5%削減目標とする。（ガラス及び陶磁器類、汚泥） 但し、新棟生産開始に伴い排出量の増加は確実ですが、増加量の予測は困難です。						